令和８年産

ＪＡえちご中越 さんとう地域「ゆきの精」栽培暦

ゆきの精生産者部会

月	４月					５月					６月					７月					８月					９月				
日	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25
出穂前後日数																-24			-14		0					+38				

生育ステージ

品種特性に合わせた作業計画の策定

種子消毒（温湯消毒）

【作業目安】

浸種開始　４月 ３日

催　芽　４月13日

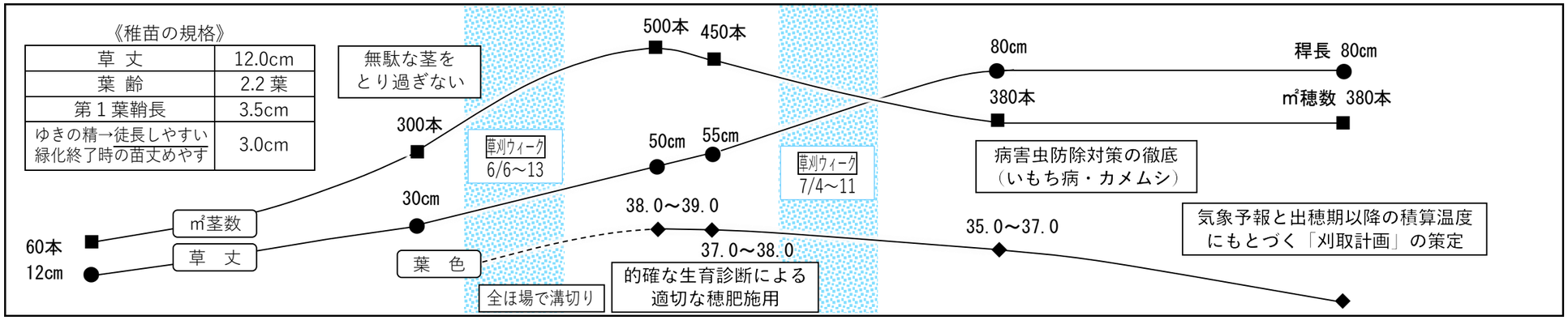
播　種　４月15日

播種量の目安：140g／箱

育苗日数は２０日程度 → 田植え ５月５日～

《稚苗の規格》

草　丈	12.0cm
葉　齢	2.2 葉
第１葉鞘長	3.5cm
ゆきの精→徒長しやすい 緑化終了時の苗丈めやす	3.0cm



中干し開始 ６月５日～ ／ 最高分げつ期 ６月23日 ／ １回目穂肥 ７月１日 ／ ２回目穂肥 ７月11日 ／ 出穂期 ７月25日 ／ 収穫期 ９月１日～

病害虫防除

【いもち病予防】ルーチンプライト箱粒剤 播種時～移植当日

除草剤散布

“補植苗”を早期に撤去する

６月中旬～ 葉いもち病 早期発見 早期防除

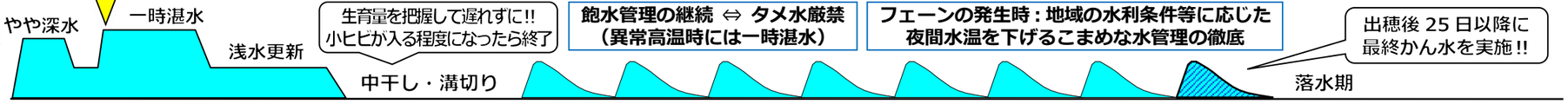
【紋枯病防除】バリダシン剤（収穫14日前まで） 穂ばらみ期～出穂期

【カメムシ防除】スタークル剤 穂ぞろい期

稲わら秋すき込み

水管理

- 田植後→3～4cmのやや深水で植え傷み回避
- 活着後→2～3cmのやや浅水で早期分げつ促進
- 除草剤散布時→湛水状態(水深5～6cm)で散布
- 中干し開始まで→浅水更新でワキの発生防止



生育量を把握して遅れずに!!
小ヒビが入る程度になったら終了

飽水管理の継続 ⇔ タメ水厳禁（異常高温時には一時湛水）

フェーンの発生時：地域の水利条件等に応じた夜間水温を下げるこまめな水管理の徹底

出穂後 25 日以降に最終かん水を実施!!

栽培管理のポイント

Point 1
～適正な作業計画の策定により健苗を育成します～

① 適期播種、適正な播種量、育苗期間20日程度で健苗を育成
→徒長に注意
② **土壌診断結果にもとづく土づくり資材（有機質・ケイ酸）の施用**
③ 作土深 15cm の確保～ほ場条件に応じた適正量の基肥施肥
→基肥 N 施肥量のめやす：「10a当たり 3.0～4.0kg」

Point 2
～適期田植えで初期生育を確保します～

① 移植前追肥（べんとう肥）の施用→活着・初期生育を促進
② 田植期のめやすは５月５日
・栽植密度：60株／坪
・植付本数：3～4本／株
・植付深さ：2～3cmの浅植え
③ いもち病の発生しやすい地域・ほ場では予防防除（箱施用剤）を徹底→補植苗を速やかに撤去

Point 3
～生育状況にあわせた生育調節で過剰生育を抑制します～

① 目標穂数の８０%（３００本／㎡＝１株あたり１７本）を確保してから→適期中干し開始
② **全ほ場で溝切り（10条：３mに1本）** →速やかなかん水・排水管理
③ 本格的な梅雨入り前にしっかり地固め→中干しは小ヒビが入る程度になったら終了～遅くとも出穂30日前までに飽水管理へ移行

Point 4
～病害虫防除と水管理の徹底で稲体機能を維持します～

① **いもち病・紋枯病の早期発見～早期防除（こまめにほ場巡回）**
② 中干し以降は、田面が強く乾くことのないよう飽水管理を継続（強い中干し・タメ水→厳禁）
③ **出穂後25日以降に最終かん水を入水（落水は出穂28日以降）**～異常高温時には、速やかに一時湛水～高温障害を防止

Point 5
～適切な生育診断による穂肥施用→品質・収量を確保します～

① 穂肥は出穂25～20日前（幼穂形成期ころ）と14～10日前の2回に分けて施用→1回あたりの施肥量はN：1.0～1.5kg、合計2.0～3.0kg／10aを目安とする
② **２回目の穂肥は確実に施用する**
③ 急激な葉色低下がみられた場合は追加穂肥を施肥（極端な多肥栽培を控える→病害被害の抑制）

Point 6
～適期刈取、適切な作業により高品質米に仕上げます～

① 出穂後の積算気温：975℃を参考に籾の黄化率（90%）を確認して適期に収穫する→異常高温が予想される場合には早めに収穫
② **胴割粒の発生防止**：刈遅れに注意～籾水分の確認による適正な乾燥温度・速度で急激に乾燥させない
③ 収穫後は早めに土づくり資材の投入＋稲わらの秋すき込み

«施肥量の目安»　（成分 kg／10a）

施肥区分	窒　素	リン酸	カ　リ
基　肥	3.0～4.0	3.5～4.0	3.5～4.0
穂肥 ①	1.0～1.5	0.4～0.6	0.6～0.9
穂肥 ②	1.0～1.5	0.4～0.6	0.6～0.9
合　計	5.0～7.0	4.3～5.2	4.7～5.8

※ 土づくり（有機質やけい酸資材の投入）を徹底し、異常気象に備える

«中干し開始の目安»

草　丈	30cm
茎　数	17本／株
葉　数	7.0葉
田植後日数	30日

«1回目穂肥施用の目安»

草　丈	65cm
茎　数	25本／株
葉　色	37.0～38.0

◆1 ほ場ごとの生育診断（幼穂形成期の確認）～品種特性にあわせた１回目穂肥の適期・適量施肥

◆2 後期栄養の維持に向けた２回目穂肥の確実な施肥

«品質向上・収量確保目標»

玄米1等級比率	90%以上
10ａ当たり収量	600kg

«品種特性»

早晩性	耐倒伏性	葉いもち	穂いもち	紋枯病
早生	**やや弱**	**やや弱**	中	中

«収量構成要素»

収量（kg／10a）	１穂籾数（粒）	穂数（本／㎡）	㎡籾数（百粒）	登熟歩合（%）	千粒重（ｇ）
600	80	380	304	88.0	22.5